

第32回川崎市文化芸術振興会議（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 平成26年2月5日（水）
午後17時00分～午後18時15分
- 3 場所 麻生区役所 第五会議室
- 4 出席者
(1) 委員 澤井委員（議長）、猪口委員、小泉委員、高田委員、野畑委員、
(2) 事務局 市民・こども局市民文化室
大坪担当課長、石床担当係長
- 5 議題
(1) 第2期文化芸術振興計画について
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【審議内容】

事務局 委員過半数の出席により、会議が成立した旨を確認。

議題1

澤井議長 それでは、議題の「第2期文化芸術振興計画」について事務局から説明をお願いしたい。

事務局 第31回会議にて審議いただいた「文化芸術振興計画（案）」について、昨年12月18日から今年1月20日にかけてパブリックコメントを実施し、26通84件の御意見をいただいた。

その中で、いただいた意見の趣旨を踏まえて計画書に反映させたものが18件である。大きな変更点として、一つは重点施策の位置づけ等がわかりにくいとの意見があったため、計画書25ページに重点施策の体系図を加えた。また、計画の進行管理・評価の体制がわかりにくいとの意見があり、計画書30ページに進行管理・評価の体制の図を加えるとともに説明を追記した。その他の修正については、語句の修正等、軽微なものがほとんどであり、計画自体の趣旨や方向性については変更していない。

- 事務局 続いて、計画書に添付する参考資料について説明させていただきたい。
最初に文化芸術振興会議や、庁内の検討委員会、市民説明等、計画の策定経過を掲載した。
次頁以降が市民意見の反映経過についてである。計画策定にあたり、市民アンケートや文化団体等への説明会を実施してきた。そこで得た市民の文化芸術に関する意識調査の結果や、文化団体等からの御意見を策定の参考にさせていただいており、これらの内容を抜粋して掲載している。また、文化芸術に対する取組の満足度調査については、第1期計画策定時の数値を比較指標として掲載した。
前回会議からの大きな変更点・追加点は以上である。
- 澤井議長 それでは、内容について質疑に入りたい。
まず、3ページの基本方針3について、「関係機関等との連携による文化芸術の振興と地域づくり」とある。計画書の他の部分においては、基本的に「まちづくり」という言葉を用いているが、この部分のみ「地域づくり」という言葉を用いている。何か意図があるのであれば別だが、他と同じように「まちづくり」に揃えたほうが良いのではないか。
- 事務局 基本方針については、第1期計画策定時に、条例の理念や振興会議からの答申をもとに設定したものであり、第2期計画においても、その内容を踏襲している。必ずしも一言一句引き継ぐ必要は無いと考えているが、基本方針策提示に「地域づくり」という言葉を用いた意図を調べたうえで検討したい。
- 高田委員 5ページの本文最後の部分について、「市民が愛着を持てる文化芸術を活用したまちづくりを推進していきます」とある。この記載だと、「愛着を持てる」が「文化芸術」にかかっているように読めるが、この「愛着を持てる」は、「まち」にかかるのではないか。もし、そうであれば、文の並びを変えたほうが良いように思う。
また、このページの記載について、一つの文章のセンテンスが長いため、非常に内容が読み取りにくい。どこかで、区切ったほうが良いのではないか。
- 事務局 高田委員の御意見のとおり、読み手に誤解を与える文章になっているため、内容については精査させていただく。
- 猪口委員 川崎は縦に長く、地域により特性も異なる。参考資料のアンケートについては、地域ごとのデータ等もあるのか。また、その特性等についても分析されているのか。
- 事務局 アンケートについては、区や、世代ごとの集計も行っており、アンケート内容によっては、地域や世代によって傾向が異なる面もある。これらについては、今後の事業執行時にも活かしていきたいと考えている。
- 高田委員 市民が、文化活動の練習場所やイベントなどの情報が欲しいと思ったときに、今の状況では、どこを見て調べれば良いのかが全くわからない。そういった部分を解消するような取組は無いのか。
- 事務局 同様の御意見は、パブリックコメントでもいただいた。わかりやすい形での発

信や、情報の一元化を進めて行く必要があると考えており、基本目標3の施策3において、取組の一つに「文化芸術活動を行うための情報の整備」を掲げ今後の事業実施において取組んで行きたいと考えている。

野畑委員 庁内の委員会は、どういう構成となるのか。

事務局 振興会議の意見や、事業を進めるうえでの課題、文化芸術を取り巻く環境の新しい動きなどは全市で共有していくべきと考えている。また、様々な分野と文化芸術が連携していくことで効果的に文化芸術の振興を図れるものであり、委員会の構成は、全区役所や、教育委員会、経済労働局、国際関連の部署など、文化と関わりが強い部署による全庁的なものと考えている。

野畑委員 ぜひ、情報の共有や連携を進めて欲しい。

高田委員 委員会のメンバーについて、区役所は企画課が入るのか。

事務局 文化芸術を様々な部署において活用してもらいたいと考えており、企画課に入ってもらおうことを考えている。

高田委員 地域において、需要と供給が噛み合っていない。こうした部分のマッチング作業を区役所の企画課が担ってもらえればよいと思う。

小泉委員 第5章、文化芸術の担い手の中に企業等の役割が記載されており、商工会議所についても記載されている。確かに、商店街や企業は積極的に様々な事業を展開しており、文化面でも振興に大いに貢献している。しかし、商工会議所については、主体となって文化芸術活動を実践しているわけではなく、文化芸術の担い手の中に名を連ねていることに違和感がある。

事務局 商工会議所自ら文化振興を企画実行することは少ないかもしれないが、市の文化振興にとって欠かせない「映像のまち推進フォーラム」や「音楽のまち推進協議会」、事業でも「モントルー・ジャズ・フェスティバル」などに深く関わっていただき、企業等とのパイプ役としても大きな役割を担っていただいていると考えている。

澤井議長 基本目標1、施策3の取組において、「国内外への魅力発信」が掲げられており、「音楽のまち」やアルテリッカ、ハロウィンなどが例示されている。しかし、川崎の文化は、こういった大きなものだけではなく、地域で脈々と育んできた伝統文化なども、まさに川崎の文化とあって良いのではないだろうか。こういった小さくても川崎土着の文化についても、国内外への魅力発信の取組に記載してはどうか。

事務局 第2章に記載したように、地域に根付いた文化が川崎の文化の根幹をなしていると考えており、魅力発信の対象であると考えている。ただし、基本目標1、施策3の取組内容は、国内外への発信による観光客等の誘致やまちの活性化を主眼においており、どこまで含めるかは検討したい。

高田委員 オリピックというのは、一つの大きなきっかけになるのではないかと。計画書にも1箇所記載されているが、「起爆剤」としてどう活用していくかを考えてい

く必要がある。

事務局　　オリンピックについては、まだ見えていない部分があり、具体の取組に記載することはできなかったが、大きな契機と意識して取組んでいく必要があると考えている。

澤井議長　　それでは、そろそろ意見も出揃ったようなので、この辺りで本日の審議は終了とさせていただきます。

(審議終了)